

[研究成果]

さつまいも安定生産技術の確立

- ・ さつまいも「べにはるか」の苗生産は、地温 25°Cを確保することで、伏せ込み開始から 30~40 日後の採苗が可能です。
- ・ 定植から収穫までの日数は、青果向けとしては 135 日、加工業務向けとしては 150 日が適切です。

【背景】

近年、焼き芋やスイーツとしてさつまいもの需要が増えており、本県でも水田での生産が拡大しています。一方で、全国的なサツマイモ基腐病の蔓延により苗の入手が困難であることや、用途（青果又は加工業務向け）に適した栽培期間が不明確であることなど、解決すべき課題も顕在化してきました。

そこで、苗の安定生産技術の確立と、用途に応じた栽培期間の検討試験を実施しました。

【結果】

供試品種：べにはるか

1 苗安定生産技術の確立

パイプハウスに内張を設置した 2 重保温条件とし、3 回に分けて種芋を伏せ込みました。その結果、伏せ込みから萌芽までの 15°C以上の有効積算温度（地温）は、いずれの伏せ込み日においても約 200°C・日でした。また、萌芽から採苗開始までの積算温度（気温）は約 600°C・日でした。

以上より、地温 25°C程度を確保した管理を行うことで、伏せ込み開始から 20 日程度で萌芽、30~40 日程度で採苗可能になると考えられました（表）。

2 用途に応じた栽培期間の検討

定植 90 日後から 5 回に分けて芋を収穫し、栽培期間の違いが規格別収量に及ぼす影響を検討しました。その結果、栽培期間 149 日以降は収量が変わらず 2L 超過（青果としては規格外）の割合が多くなりました。

以上より、適切な栽培期間は、青果向けとしては芋が過肥大しすぎない 135 日、加工業務向けとしては芋が十分肥大する 150 日の確保が適すると考えられました（図）。

表 伏せ込み時期の違いが萌芽・採苗に及ぼす影響

伏せ込み日	萌芽揃い日※1	積算温度※2	採苗開始日	積算温度※3	採苗本数(本/芋)※4
3/5	4/2	210°C・日	4/23	602°C・日	35.8
3/18	4/8	195°C・日	4/26	614°C・日	28.2
4/3	4/23	192°C・日	5/9	553°C・日	19.1

※1：各区 60%の種芋から萌芽した日を「萌芽揃い」とした。
 ※2：地温 15°C以上を有効積算温度とした値
 ※3：萌芽揃い日から採苗開始日までの気温を積算した値
 ※4：現地慣行に合わせ、全ての区で 5 月 31 日に採苗終了としたため、後半に伏せ込んだ区ほど採苗本数が少なくなった。
 ※5：本試験は令和 6 (2024) 年（試験期間中の平均気温は平年値 + 2 ~ 5°C）に実施した。

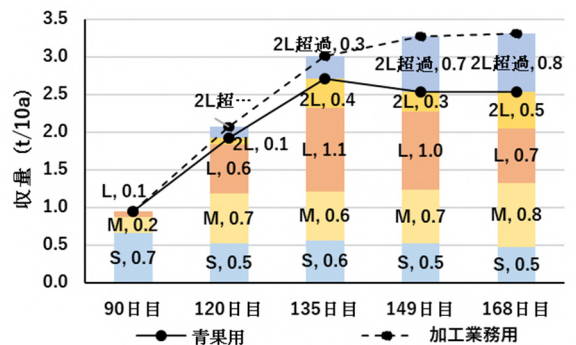


図 栽培期間の違いが規格別収量に及ぼす影響

※ S：100~199g M：200~299g
 L：300~449g